

5. 前川の河岸史跡

前川沿いは古くから水運の要所でした。特に江戸幕府が成立すると、東北諸藩の年貢米や諸物資が内川廻り潮来經由で江戸に回漕されるようになりました。当時、大量の物資を輸送するのに、水上輸送が陸上輸送よりも便利で、運賃も安かったからです。内川廻りで潮来を経て江戸に入る舟運には、2つのコースがありました。

その1つは、奥州方面から太平洋を南下した廻船が、那珂湊から湊沼に入り、海老沢河岸(茨城町)に荷揚げされ、そこから馬に積み替えて陸路を紅葉(鉾田市)や下吉影(小美玉市)まで運び、小舟で巴川を塔ヶ崎や串挽河岸(鉾田市)におろし、ここで高瀬舟に積み替えて北浦から潮来に出るコースです。潮来からは現在の常陸利根川から横利根川を通して佐原に出て、利根川を溯り、そして関宿(千葉県野田市)から江戸川の舟運を利用しました。このように手数のかかる積み替えや、距離の延びる迂回路を辿るコースが利用された理由は、当時、鹿島灘沖の航行が危険であり、房総沖を回って江戸湾に乗り入れることが技術的に困難であったからといわれています。

潮来を通る2つ目のコースは、奥州から南下した廻船が那珂湊を経て鹿島灘を乗り切り、銚子の河口から潮来に入り、潮来で海船から川船に積み替え利根川を溯上して江戸川に入る方法でした。これはのちに銚子で海船から川船に積み替えるように変わって行きました。

この2つのコースのうち、那珂湊から湊沼を経由して潮来に出るコースが先に開かれ、その後、銚子河口から入船するコースが一般化したとされてきましたが、近年、両コースとも近世初期から利用されてきたとする説が有力になっています。しかし、いずれのコースを辿っても寛文期(1661～1672年)から元禄期(1688～1703年)には、東北諸藩から潮来を経由して物資が江戸に廻送されました。

そのため、前川筋には仙台藩や津軽藩などの蔵屋敷が設けられ、潮来では遊郭も営業し港町として、行楽地として繁栄しました。河岸跡・屋敷跡には現在は史跡碑が建てられています。

(1) 津軽河岸の歴史

「旧跡津軽屋敷」の跡地には、津軽河岸と石蔵が復元されており、観光スポットとして活用されています。

「津軽屋敷」は津軽藩の記録によれば、江戸への御膳米の輸送が開始されたのは、寛永2年(1625年)となっています。この年は青森開港の年です。この「御膳米」とは、江戸藩邸での自家消費のためのものでしたが、やがて、江戸市場での換金用の米も運ばれるようになりました。その後元禄期までの間には「屋敷」が必要となるほど、津軽産物資の輸送が増えたと言えます。

「茨城の民俗」第5号延方新莊桜涯氏の論文「汐来における仙台と津軽の蔵跡」によれば、仙台藩の潮来屋敷は、慶安2年(1649年)に置かれ、宝暦6年(1752年)に廃止されたとの記載があります。川筋の変化の他に、潮来で海舟から川舟(高瀬舟)に積み替える利根川經由の他に、直接江戸まで運送する東回り廻船の利用が主流になったことも、津軽屋敷の廃止の理由だったと考えられます。



復元された石蔵



復元された津軽河岸

(2) 大門河岸

大門とは施設の外殻にある大きい門の意味です。大門河岸は長勝寺から約250mの位置にあり、昭和5年の地図で見ると、奥行き10m、幅10mと推定されます。

長勝寺の大門がある河岸が大門河岸と理解すると、常陸風土記の行方郡に記載されている内容から、「板来」の駅家は長勝寺付近に設けられたと考えられます。大門河岸は駅家が置かれたところからの船着場として、源頼朝が長勝寺を建立するにあたって、この船着場を利用して船着場から寺への直線道路を正門道とし、総門である「大門」が浜辺に建立され、船着場が整備され、大門河岸となったと考えられます。

【参考：常陸風土記の記載内容】

板来の村あり。近くに海浜に臨み、駅家を安置せり。
ここを「板来の駅」という。



(3) 上米（城米）河岸

城米河岸は水戸藩の河岸で、城米の集積地でした。現在は住宅地になっていますが、当時は倉庫や役所、関係役人の住居が立ち並んでいたとされます。この河岸は水戸藩が置かれたところに設置されたと考えられています。



(4) 仙台河岸

仙台河岸は川岸に4つの河岸が設けられ、川岸には約9万㎡の土地に蔵や住居等の建物があったと推定されています。

「茨城の民族」第5号延方新莊桜涯市の論文「汐来における仙台と津軽の蔵跡」によれば、仙台藩の潮来屋敷は慶安2年（1649年）に置かれ宝暦6年（1752年）に廃止されたとの記載があります。川筋の変化の他に、潮来で海舟から川船（高瀬舟）に積み替える利根川経由の他に、海舟で直接江戸まで運送する東回り廻船の利用が主流になったことが津軽藩の潮来屋敷が廃止された理由と考えられます。



(4) 天王河岸

素鷲熊野神社の南に位置し、素鷲神社が天王原から文治4年6月に遷座された地で、天王河岸の名前も素鷲神社つまり天王様の名によります。今は、潮来祇園祭時に御飯屋を建てる場所として鳥居と常夜灯などがあります。現在は天王河岸は埋め立てられています。

